

関西詩人協会会報

第 88 号
2018.1.10

発行者 左子真由美

- ① 総会全体報告
- ② 総会に於ける講演／決算報告書
- ③ 新代表・左子真由美からの挨拶／総会出席者お名前／予算案
- ④ 会員の詩（安福奈津子・名古きよえ）新入会員の紹介（西田純）／住所変更／新役員担当
- ⑤ 詩のひろば原稿募集／兵庫県現代詩協会文学散歩お知らせ／ポエトリー・リーディング
- ⑥ 京都／日本現代詩人会西日本ゼミナール滋賀／ホームページのご案内／運営委員会の模様
- ⑦ 会員の活動／会員が発行または編集する詩誌／会員の最新刊詩書／団体の会報・図書

総会報告

次期関西詩人協会代表は左子真由美氏に決定

秋の光の美しい日、大阪の大川端の桜並木は見事な桜紅葉を見せていた。川を行き来する屋形船の人になりたいような日和に傍らのキャッスルホテルで関西詩人協会の総会が持たれた。

参加数67名、外部より4名

歴年の運営委員を務めておられる原圭治さんの司会で、この一年で亡くなられた10名の方への黙祷から始まった。それは飛鳥聖羅、井上哲士、猫西一也、志賀英夫、下林昭司、富田恵美、日高滋、平野裕子、三方克、三島佑一の各氏である。

有馬代表の詩と詩らしきものを見究める力を持つようにという開会の挨拶の後、総会の審議司会を岸本嘉名男氏に代わった。

佐古祐二委員により「運営事業報告」岩井洋委員により「会計報告」瀬野とし監査委員により「監査報告」があった。

前年度の報告はいずれもこの会報にその都度載せているが、再掲するならば、5月の名古きよえ氏のふるさと美山町の探訪はバス旅行で夫婦での参加が10組あり、しかも単独会計では黒字であったこと。7月の詩画展は例年通りの作品参加があり、その作品をカラーの作品集にして、後日配布したこと。その期間中の詩話会は「創立当時の詩人とその作品」と銘打って原圭治氏がお話をし、「朗読文化の会・あい」のメンバーがその方達の詩を朗読したこと。9

月の詩のイベントは寮美千子氏に奈良刑務所に入所中の少年達が詩を書くことで心を開いていったという感動的な話を生き生きとしたテンポの良い言葉で聴くことができた。参加者は81名だったが、半数は会員外の方々であった事。この時も「朗読文化の会・あい」が少年達の詩を彼らに成り代わって朗読した。参加者による五行詩の朗読もあった。「詩のひろば」というのは、関西詩人協会の会員ならどなたでも投稿できる場なので、戸外の活動に参加できない身体の不自由な方や遠方の方には特に参加してほしい。

会計報告は次頁の通りである。今使っているメール便の発送費用がまた値上げするかも知れないという懸念事項がある。繰越金が少ないのでスムーズな会費納入と会員の増員が望まれる。次に会報の報告を永井ますみ委員が、ホームページの報告を松村信人委員が行った。

次年度の計画を名古きよえ委員が、次年度予算案を岩井洋委員が述べ、特に質問もなく議案の承認は挙手によって諮られ承認された。

関西詩人協会代表は杉山平一氏が一代、有馬敏氏が二代、今期は三代目ということになる。選出についての経過や詳細を大倉事務局長から話された。運営委員会が推薦する代表候補左子真由美氏の可否を会場に求められて満場一致で承認された。

次期運営委員の選挙については嵯峨京子選挙管理委員長から経過説明と点呼があった。新旧代表は前

に整列した。今回で委員を退任する人たちを代表して原圭治委員から挨拶があり、次期委員を代表して左子真由美新代表から挨拶があった。

当初から設立に関わって来られた左子真由美氏は三つのFでその理念が表されると話された。挨拶は改めて3頁に掲載する。

休憩を挟んで植村正純氏の講演があったがそれも別途記載する。本年度表彰を受けられた方々に前に並んでいた方々に、後刻に北村真、平野鈴子、橋爪さち子各氏の朗読を聴いた。

次に本年度詩書出版された方々に整列頂き拍手で祝福。

新会員を代表して阪南太郎さんにご挨拶いただき、和やかなムードで第一部は終了した。

左子新代表の挨拶と新メンバー（全部写りませんでした。すみません）

